

## 金属やセラミック造形

### 3Dプリンター 研究

島津系や近大

島津製作所子会社の島津機システムズ(大津市)や近畿大学などは24年程度で実用化を目指す。

研究は島津や近大のほか、金属やセラミックの3Dプリンター技術の確立に向けた共同研究を始めると発表した。造形が速く大きな造形物に対応できる「材料押し出し積層法(MEX方式)」で、初の純国産の金属3Dプリンターで造形し、島津の焼



金属の造形に使われるエス・ラボの3Dプリンター(左)や島津の焼結炉(24日、大津市)

結炉で焼き固める。素材や形状など条件に応じた造形方法や焼結手法を確立する。近大次世代基盤技術研究所の京極秀樹特任教授が評価、指導する。

現行の金属3Dプリンターは金属の粉末をレーザーで溶かしながら造形する方式が主流だ。MEX方式はプリンターのノズルから材料を押し出し、一層ずつ重ねて造形する方式で、従来に比べて設備を簡素化でき、造形時間も短縮することが可能だという。

開発する金属3Dプリンターのシステムは1億3000万円程度を想定し、発売初年度で約6億円の売り上げを目指す。材料ごとの焼結時間などのプログラム方法を簡素化し、専門知識がなくても簡単に金属3Dプリンターを取り扱えるような仕組みにする。